第3章 市民多文化共生アンケート調査の結果

1 調査の趣旨

(1)調査の目的

本プランの策定にあたり、市民から多文化共生に関する施策への評価や意見、新たな提案を収集し、その結果を基礎資料として活用することを目的に実施しました。

また今回は外国籍市民に加えて、日本人市民に対してもアンケート調査を実施しました。

(2)調査対象・方法

市内に在住する18歳以上の市民を無作為に抽出しました。
対象者にハガキを送付し、WEBフォームによる回答を依頼しました。

(3)調査実施期間

令和7年8月1日(金)～令和7年9月16日(火)

(4)回収結果

項　目	日本人市民	外国籍市民
発送数	1,800件	1,500件
回収数	251	424
有効回収率	14.0%	28.7%

※令和7年8月1日時点の越谷市人口:日本人市民 332,116人、外国籍市民 9,772人

2 日本人市民アンケート

(1)概要

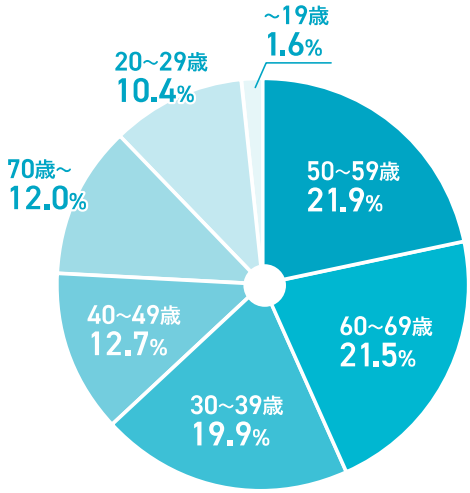
主に以下の項目について、全20問調査しました。

- 基本情報
- 越谷市の行政サービスへの評価
- 地域活動に関する意見
- 多文化共生に関する意見

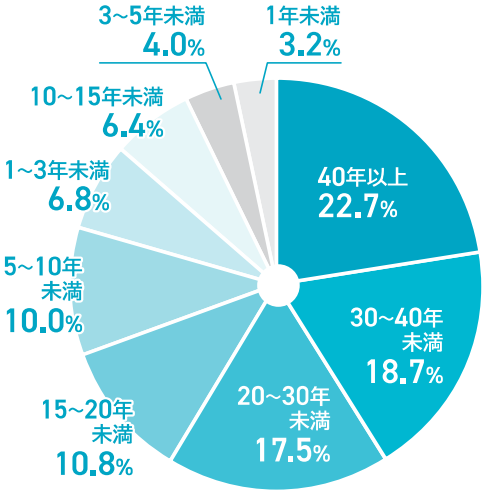
(2)回答者基本情報

回答者の年齢は、50歳以上が全体の半分以上を占める結果となりました。また越谷市の在住歴に関しては、20年以上が全体の58.9%を占めました。

年 齢



越谷市に住んでどのくらいですか。



3 外国籍市民アンケート

(1)概要

回答フォームは、日本語、やさしい日本語、英語、中国語簡体字、ベトナム語、フィリピン語の5言語(6種類)を用意して、回答者が独自で選択する形式としました。

日本人市民と言語や日本の居住歴等、置かれている状況が異なることを考慮し、「求める情報や情報の入手方法についての状況」「日本語学習についての状況」についての質問を追加し、全29問調査しました。

- 基本情報
- 求める情報や情報の入手方法についての状況
- 日本語学習についての状況
- 越谷市の行政サービスへの評価
- 地域活動に関する意見
- 多文化共生に関する意見

(2) 回答言語

回答言語は日本語、英語、中国語簡体字、やさしい日本語、ベトナム語、フィリピン語の順に多い結果となりました。

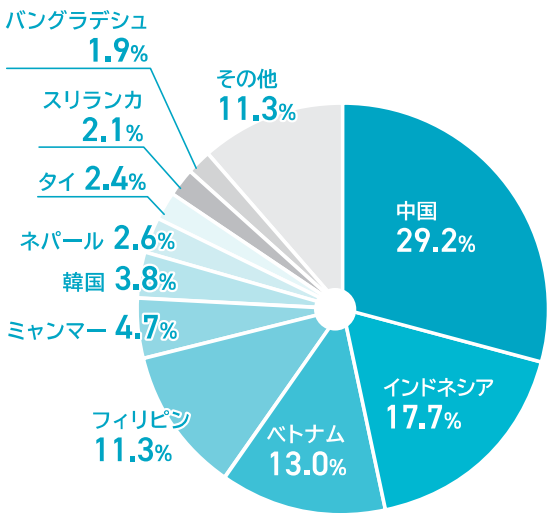
項　目	回答数	割合
全体	424	100.0%
日本語	120	28.3%
英語	103	24.3%
中国語簡体字	71	16.7%
やさしい日本語	59	13.9%
ベトナム語	50	11.8%
フィリピン語	21	5.0%

(3) 回答者基本情報

回答者の年齢については、39歳までの回答者が8割以上を占め、日本人市民に比べて若年層の回答が中心でした。国籍は中国、インドネシア、ベトナム、フィリピンの順に多い結果となりました。また在留資格については、特定技能[1]、永住者[2]、技能実習[3]の順でした。

日本在住の通算期間は1年未満の人が約半数となる49.9%でした。

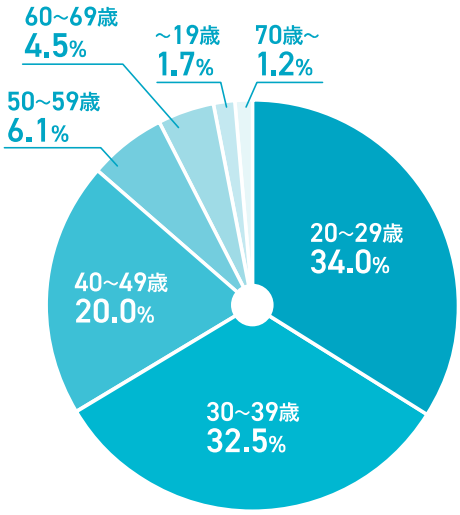
国籍



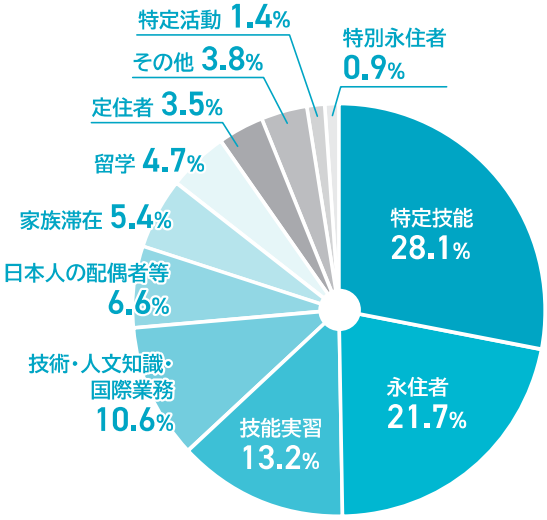
項　目	回答数	割合
全体	424	100.0%
中国	124	29.2%
インドネシア	75	17.7%
ベトナム	55	13.0%
フィリピン	48	11.3%
ミャンマー	20	4.7%
韓国	16	3.8%
ネパール	11	2.6%
タイ	10	2.4%
スリランカ	9	2.1%
バングラデシュ	8	1.9%
その他[4]	48	11.3%

1 特定技能…2019年に創設された在留資格で、介護や建設など、特定の産業分野に限って就労が可能です。
2 永住者…在留期間・活動範囲・就労に制限がない在留資格で、無期限で滞在することが可能です。
3 技能実習…開発途上国の人材育成・経済発展への協力を目的として創設された在留資格で、一定期間、日本での実務を通じて技能を習得する制度です。
4 その他の国（台湾、パキスタン、ラオス、カメルーン、アメリカ、イギリス、ウズベキスタン、トルコ、ナイジェリア、ブラジル、ペルー、マレーシア、ベトナム、アイルランド、イタリア、オーストラリア、ガーナ、カナダ、シンガポール、スーダン、ドイツ、メキシコ、モンゴル）

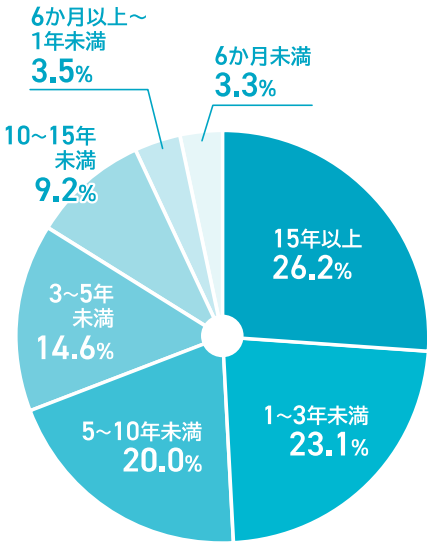
年 齢



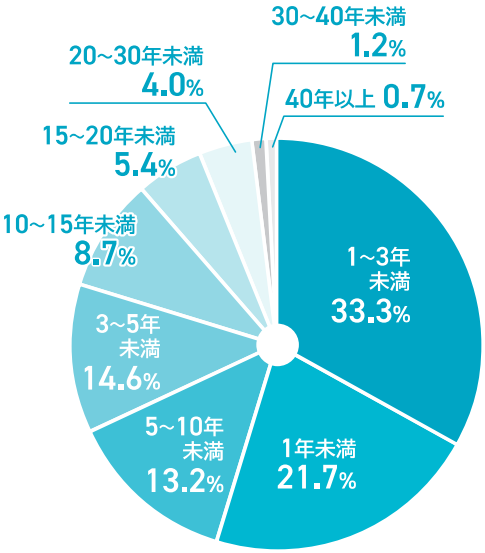
在留資格



日本における通算生活期間



越谷市に住んでどのくらいですか。



4 調査結果のポイント

調査結果の中から、本プランの策定のポイントとして着目すべき点を4点挙げます。

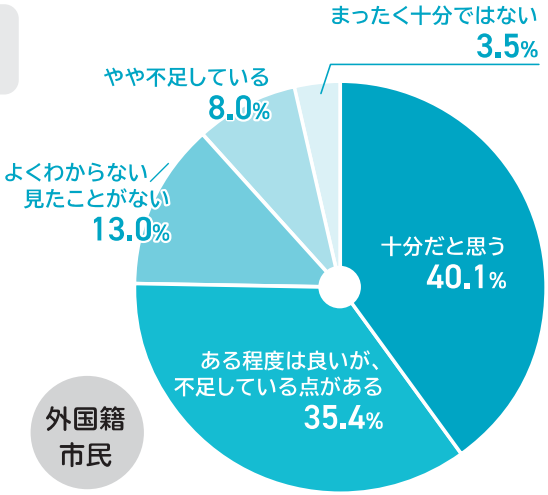
(1)外国籍市民への情報提供強化と学ぶ機会の提供

外国籍市民アンケートにおいて、情報提供に関する意見を尋ねたところ、「十分だと思う」(40.1%)の回答を、「ある程度は良いが、不足している点がある」「やや不足している」「まったく十分ではない」と答えた人の合計(46.9%)が上回りました。令和2年度多文化共生推進プラン策定以降、越谷市では外国人市民への情報提供に力を入れてきましたが、今後もさらなる改善が求められます。

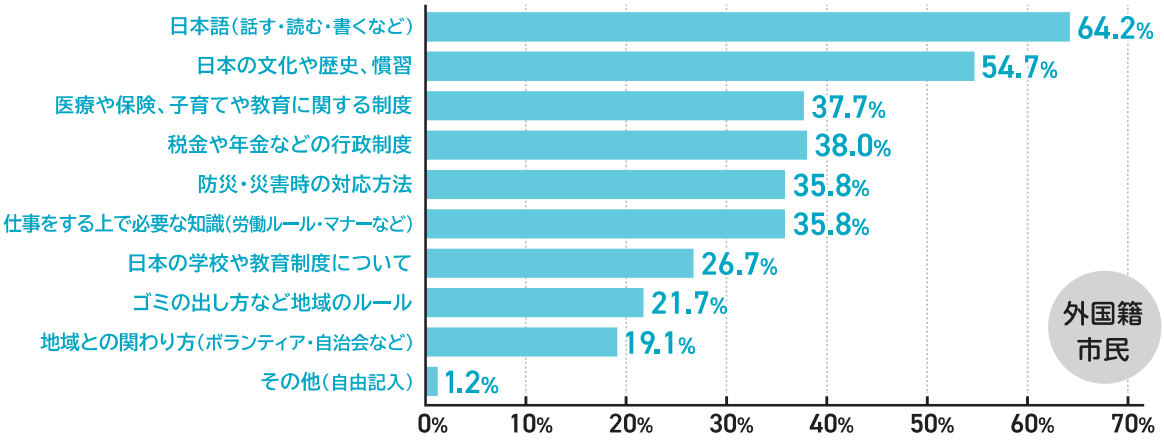
また、「日本で生活していく上で学びたいこと」についての質問では、「日本語(話す・読む・書くなど)」(64.2%)、「日本の文化や歴史、慣習」(54.7%)が多数挙げられました。これらの結果から、多くの外国籍市民が、日本での生活に必要な言語や文化・慣習について学ぶことを望んでいることが明らかになりました。

このような状況をふまえ、日本人市民との情報格差を縮小するためにも、外国人市民に対する情報提供の強化を進めるとともに、日本語学習や生活習慣の理解を促す学びの場を整備していくことが重要です。

越谷市の外国籍市民向けの情報提供は十分ですか。



日本で生活していく上で、今後どのようなことを学びたいですか。※複数回答



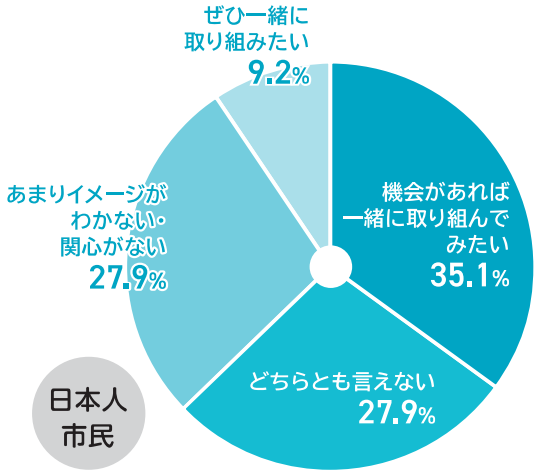
(2)求められる、交流のきっかけづくり

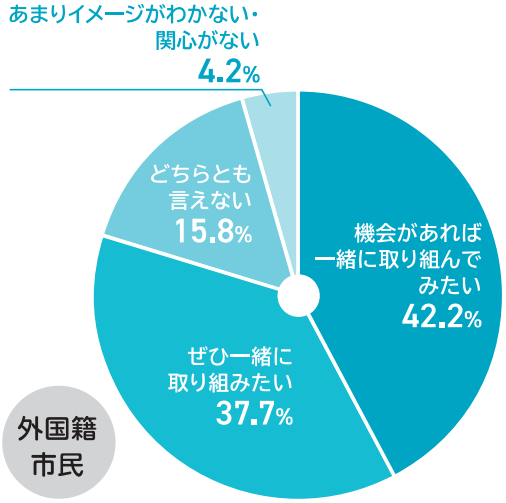
「日本人市民と外国籍市民が一緒にまちづくりや防災、防犯をすることについて、どう思いますか」という質問では、日本人市民の過半数が「どちらとも言えない」または「あまりイメージがわかない・関心がない」と回答しました。一方、外国籍市民は「機会があれば一緒に取り組んでみたい」「ぜひ一緒に取り組みたい」と答えた人が7割を超えました。

また、「普段の生活で、地域の外国籍市民(日本人市民)と交流する機会はありますか」という質問に対して、交流が「まったくない」「あまりない」と答えた日本人市民が8割以上にのぼり、外国籍市民は約4割にとどまりました。

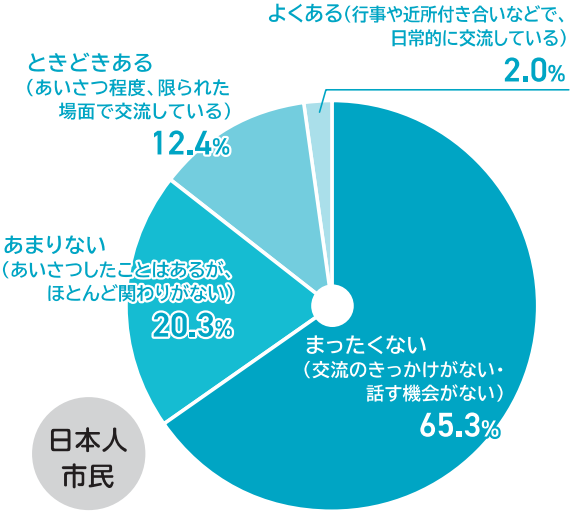
これらの結果から、地域での交流経験の有無が、協働への関心や意欲に一定の影響を与えている傾向がうかがえます。すなわち、外国籍市民との交流が少ない日本人市民ほど、将来的な協働への関心が薄くなりやすく、逆に日常的に日本人市民と交流している外国籍市民は、協働にも前向きな姿勢を示しています。今後、市として地域での交流機会を促進することで、協働に前向きな市民が増える可能性が期待できます。

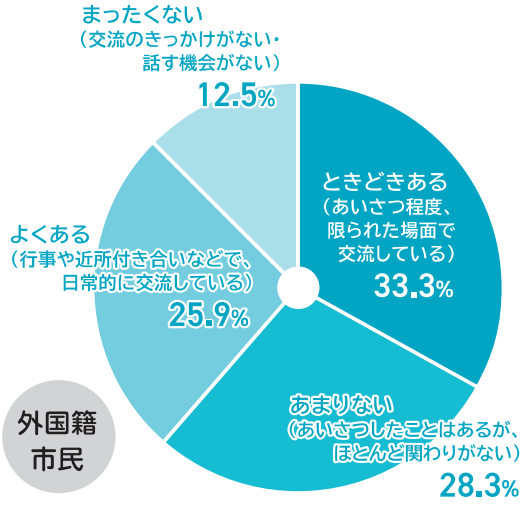
日本人市民と外国籍市民が一緒にまちづくりや防災、防犯をすることについて、どう思いますか。





普段の生活で、地域の外国籍市民(日本人市民)と交流する機会はありますか。





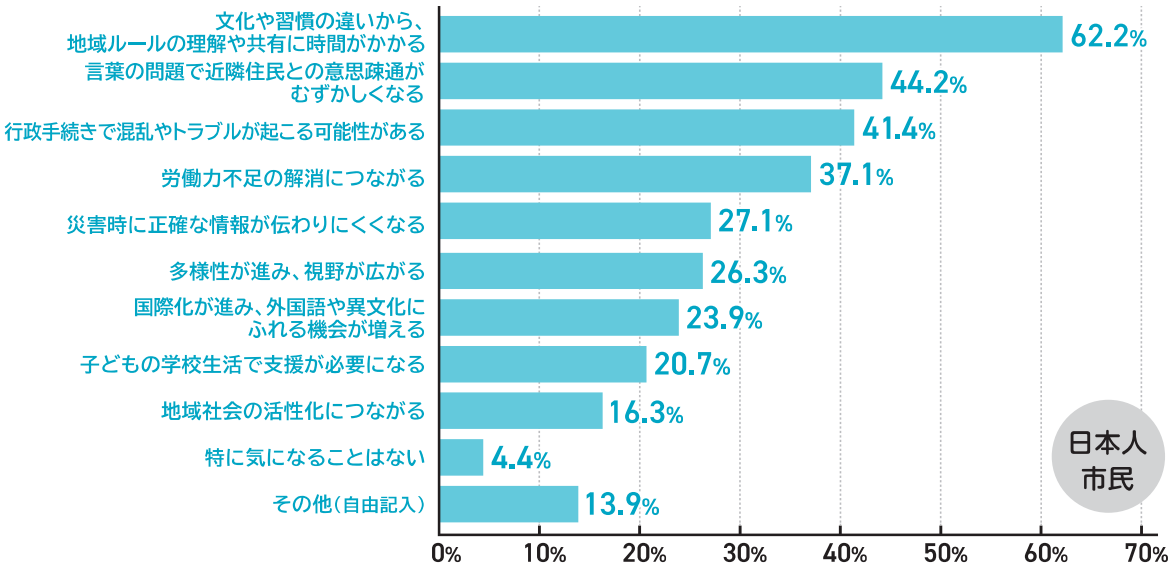
(3)国籍を問わず、「地域のルールやマナーを守ること」を重視する市民が多い

日本人市民に対する「日本社会の少子高齢化が進行する中、外国籍市民の増加についてどのように感じていますか」という質問に対しては、「文化や習慣の違いから、地域ルールの理解や共有に時間がかかる」が62.2%、「言葉の問題で近隣住民との意思疎通がむずかしくなる」が44.2%と、地域・近隣についての不安を挙げる回答が上位を占めました。

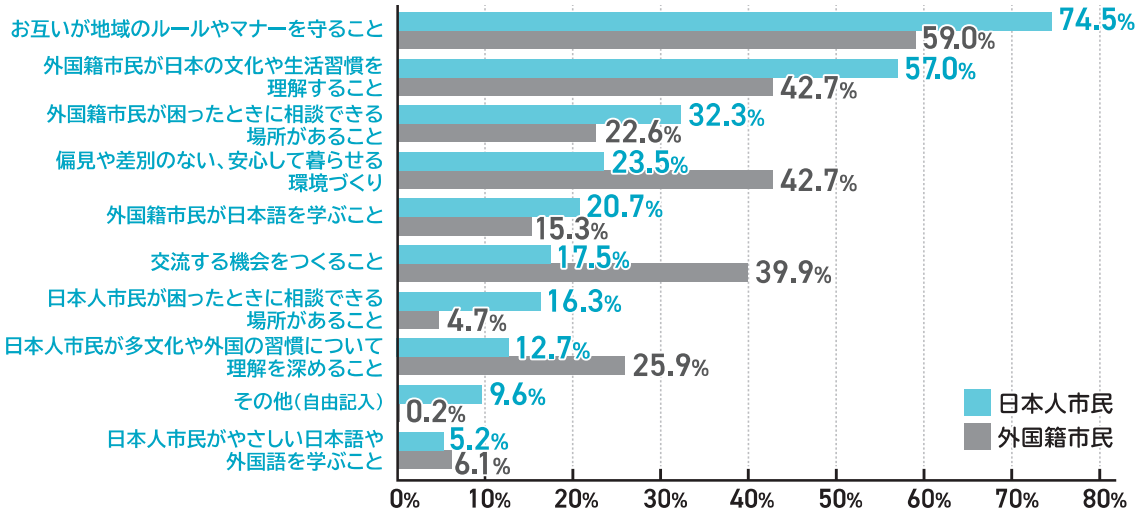
一方で「日本人市民、海外から移住した外国籍市民が同じ地域で暮らすために、大切なことはなんだと思いますか」という質問に対しては、日本人市民、外国籍市民ともに「お互いが地域のルールやマナーを守ること」が最も多く、次いで「外国籍市民が日本の文化や生活習慣を理解すること」が多い結果となりました。

これらの結果から、日本人・外国籍いずれの市民においても、地域で共に暮らす上でのルールやマナー、生活習慣を重視する意識がうかがえます。今後、在住歴の浅い外国籍市民に対しては、地域のルールやマナーに関する情報提供を丁寧に行うとともに、住民同士の相互理解を促進する取り組みが求められます。

日本社会の少子高齢化が進行する中、外国籍市民の増加についてどのように感じていますか。※複数回答



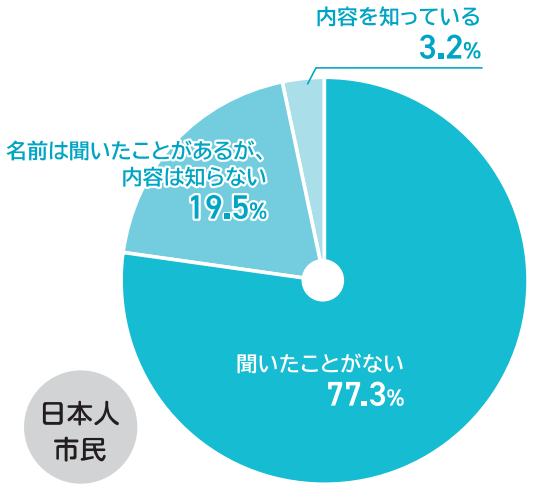
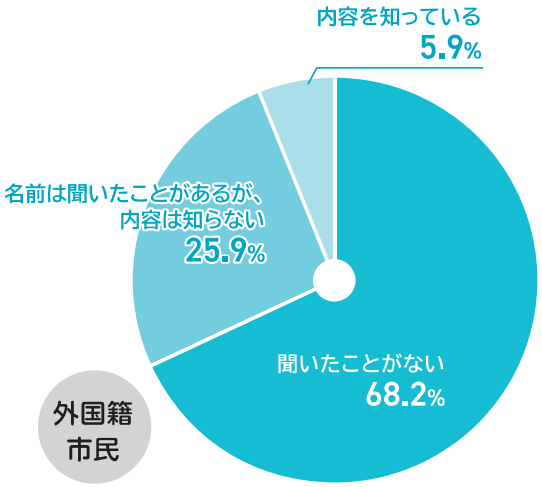
日本人市民、海外から移住した外国籍市民が同じ地域で暮らすために、大切なことはなんだと思いますか。あなたが特に大事だと思うものを、3つまで選んでください。※複数回答



（4）多文化共生施策への理解の促進

「越谷市の『多文化共生推進プラン』を知っていますか」という質問に対しては、日本人市民・外国籍市民のいずれにおいても、「聞いたことがない」が最も多く、プランの認知度が十分に浸透していない状況が明らかになりました。

また、日本人市民向けアンケートの自由記述には、「最近は多文化共生に偏りすぎていると感じる」「共生は難しい、無理だと思う」「共生に限界を感じる」など、多文化共生のあり方に対して懸念や疑問の声も複数寄せられました。これらの声には、日本人市民の文化的背景や生活習慣に基づく不安や戸惑いが反映されていると考えられ、真摯に受け止める必要があります。

本プランは日本人市民を含むすべての市民が安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。今後は、本プランに基づく施策の着実な推進とあわせて、内容や意義をわかりやすく伝える広報にも努め、市民の理解と共感を広げてまいります。

越谷市の「多文化共生推進プラン」を知っていますか。